

厚生労働行政推進調査事業費補助金

厚生労働科学特別研究事業

周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究

平成30年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 齋藤 繁

令和1年(2019)年 10月

## 目 次

|                          |          |
|--------------------------|----------|
| I . 総括・分担者研究報告           |          |
| 研究マテリアルの作製・調査            | ----- 1  |
| 齋藤 繁                     |          |
| (資料) 全国日本麻酔科学会員への広報文書    |          |
| II . 分担研究報告              |          |
| 1 . 特定行為研修カリキュラムに関する研究   | ----- 7  |
| 川口 昌彦                    |          |
| 廣瀬 宗孝                    |          |
| 齋藤 繁                     |          |
| (資料) 研修カリキュラム            |          |
| 2 . 特定行為研修プログラムに関する研究    | ----- 14 |
| 長坂 安子                    |          |
| 石橋 まゆみ                   |          |
| 齋藤 繁                     |          |
| (資料) 周術期における特定行為研修者プログラム |          |
| 3 . 手順書作成に関する研究          | ----- 30 |
| 川真田 樹人                   |          |
| 後藤 隆久                    |          |
| 森松 博史                    |          |
| 藤野 裕士                    |          |
| 藤原 祥裕                    |          |
| 佐藤 暢一                    |          |
| (資料) 手順書案                |          |

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
（総括・分担）研究終了報告書

周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究  
齋藤 繁 国立大学法人群馬大学 大学院医学系研究科・教授

## 研究要旨

医師ならびに医療スタッフの働き方改革の呼び声のもと、急性期医療の業務の効率化が進められている。周術期管理の多職種連携もその重要な推進事項である。周術期管理チームは、急性期医療に従事するスタッフ不足の中で、病院で働く多職種の人々がお互いの専門性を活かしながら情報共有して、チームとして患者を支援するシステムである。周術期医療の現場で活動している多くの看護師が「周術期管理チーム制度」や「特定行為研修制度」を効率的に活用し、安全で専門性の高い周術期医療の実践を通じて国民医療に貢献できるよう、本厚生労働科学研究では、特に活用するためのマテリアル作成を行い、あわせて当該研修の必要度を医療現場の担当者に対するアンケート形式により調査を行う。周術期管理に関する特定行為のうち、術中管理パッケージに関して手順書などを2018年度に作成した。2018年度3月以降、2019年度に前年度作成文書による制度説明を広く行い、需要の調査や研修施設の確保可能数を試算するための基礎データ収集を行った。

### A．研究目的

医師ならびに医療スタッフの働き方改革の呼び声のもと、急性期医療の業務の効率化が進められている。周術期管理の多職種連携もその重要な推進事項である。医療機関での業務は医療の高度化に伴い、非常に分業的になりつつある。医療スタッフがそれぞれ専門性の高い業務を真摯にそして先鋭的に実践すればするほど、継続性が希薄になり、不必要に類似作業が繰り返されたり、情報伝達ミスによるトラブルの発生を招く。周術期管理という概念はこうした傾向を回避するためのもので、侵襲的医療行為の前後を含め一貫した医療を実践しようというものである。

昨今、急性期医療が集約化されてきたことで大学病院や各地域基幹病院での手術症例、麻酔症例は大きく増加している。その

上、侵襲的医療を受ける患者の高齢化や重症化が進み、周術期医療の安全確保にはこれまでも増して細心の注意が求められている。周術期管理チームは、急性期医療に従事するスタッフ不足の中で、病院で働く多職種の人々がお互いの専門性を活かしながら情報共有して、チームとして患者を支援するシステムである。チームメンバーのそれぞれが綿密に連携を図りながら得意な領域を担当することにより、個別に同様の問診や処置を繰り返すことなく、専門性の高い医療を安全で合理的に実践することを目指している。

そうした周術期管理体制整備への社会的需要に応えるべく、日本麻酔科学会は2007年に「周術期管理チーム」構想を打ち出した。2014年秋には、第1回目の認定試験を資格を有している看護師対象に開始した。さらに、2016年からは薬剤師、2017年からは臨床工学技士の認定へと着実な周術期管理チームメンバーの養成を進めている。2019年4月時点で1908名の看護師をチームメンバーとして認定している。

周術期医療の現場で活動している多くの看護師が「周術期管理チーム制度」を活用し、安全で専門性の高い周術期医療の実践を通じて国民医療に貢献することを期待する。

本厚生労働科学研究では、特に特定行為研修の制度を効率的に活用するためのマテリアル作成を行い、あわせて当該研究の必要度を医療現場の担当者に対するアンケート形式により調査することを目的とした

### B．研究方法

周術期管理チームの活動とそれに関わる特定行為研修の概要に関して説明文書を作成する。特に特定行為研修の指定研修期間になるための申請文書の具体例を作成し、関係施設での理解を深める。研修需要や研修期間の確保可能数を試算するための基礎データは電子媒体を活用したアンケート形式で調査する。

### C．研究結果

周術期管理に関する特定行為のうち、術中管理パッケージに関して手順書などを2018年度に作成した。2019年度3月以降、2019年度に前年度作成文書による制度説明を広く行い、需要の調査や研修施設の確保可能数を試算するための基礎データ収集を行った。

D．健康危険情報

なし

E．研究発表

本事業の成果物として「周術期特定行為研修について」(令和元年9月 公益社団法人日本麻酔科学会 編)を作成した。

2. 学会発表

2018年5月19日 第29回日本臨床工学会(盛岡市)パネルディスカッション「『医師の働き方改革』における臨床工学技士の役割」日本麻酔科学会周術期管理チームプロジェクトと働き方改革」

2019年5月31日 日本麻酔科学科第66回学術集会シンポジウム「周術期管理チー

ムと特定行為研修」発表者： 齋藤繁(座長)、廣瀬宗孝、内藤祐介、石橋まゆみ

2019年6月1日 日本麻酔科学科第66回学術集会シンポジウム「周術期管理を担う医療従事者を如何に集めるか」日本麻酔科学会の周術期管理チームに関する取り組み」

2019年8月10日鹿児島大学病院看護師特定行為研修センター「看護師特定行為シンポジウム」

2019年9月27日 第41回日本手術医学会総会「周術期管理における各職種の役割」

F．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

<日本麻酔科学会が提案する「周術期特定行為研修」について>

日本麻酔科学会 理事長 稲田英一  
周術期特定行為群研修企画部会 部会長 齋藤 繁

現在、日本麻酔科学会では「周術期特定行為研修」プログラムの作成を開始しています。これまでの経緯と今後の予定について概要を説明させていただきます。

2018年8月、厚生労働省医政局医事課・看護課から、特定行為研修制度の創設当時、厚労省と麻酔科学会で相談・調整を行っていた経緯を踏まえ、特定行為研修制度の創設5年後の見直しについて説明がありました。その際、「現行の『特定行為に係る看護師の研修制度』を一部改変し、複数区分の研修を臨床現場の実情に合わせてセットで研修できるようにする予定である。」という情報が寄せられました。その意図として以下の点があげられました。

- 1) 特定行為研修制度はチーム医療の推進のために創設されていることから、「医師の働き方改革」の中で求められているタスクシフティングにも本制度が効果を発揮できるように改変したい。
- 2) 現行の制度では研修項目が個別的で、病院の臨床現場で需要の高い項目を効率的に研修できるようになっていない。パッケージ化してより短期間の研修で修了できるようにしたい。
- 3) 研修修了者が非常に限られており、現場での活動も拡大していないので、学会等から現場の需要に対応した研修プランを作成したい。

今回の改定は、既に設定されている特定行為群のいくつかを、臨床現場の実情にあわせてセットで研修することを可能にするものです。従って、新たな項目を追加するものでも、新たな資格を創設するものでもありません。

<これまでの経緯と今後の予定>

・2018年8月24日：厚生労働省担当官が本学会理事会メンバーに対して経緯説明を行いました。引き続き開催された理事会において、他団体等において周術期関連の提案がなされることを傍観する展開としないためにも、本学会が主導するプランを提案すべきであると合意されました。

・2018年9月3日：「医師の働き方改革に関する検討会」において、稲田理事長が医療安全確保と医師の働き方改革に資する特定行為群研修の必要性について要望を行いました。なお、この会では日本外科学会から術後処置に関する特定行為群研修の

提案も行われました。

・2018年9月18日：本案件の具体的なプランニングを行う「周術期特定行為群研修企画部会(仮)」が設置されました。

・2018年9月28日：医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会(以降、「特定行為部会」という。)において、医師の働き方改革検討会に提出された麻酔科学会の要望書が紹介され、術中麻酔管理領域において特定行為研修のパッケージ化を行うことが合意された。

・2018年10月21日：第一回企画部会が開催され研修計画作成の方針が討議されました。

・2018年11月2日：第二回企画部会が開催され、具体的な研修項目と研修時間に関する厚生労働省への提案内容が決定されました。

・2018年12月6日：特定行為部会において本会と相談の上で厚労省が作成したパッケージ化案が提案された。

・2018年12月14日：「特定行為研修の研修内容等に関する意見書」(部会のとりまとめ)が公表された。(術中麻酔管理領域において、実施頻度が高い特定行為をパッケージ化し研修することを可能とする)

・麻酔科学会において、2018年12月より研修コースの詳細作成作業ならびに手順書セットの作成が行われています。

#### 今後の予定

・2019年3月以降：セット化された特定行為研修を可能とするため、省令が一部改正される予定です。

・2019年度後半：省令改正に対応した特定行為群研修プログラムの申請受付が開始される予定です。

・2020年度～：新たなプログラムに沿った研修が実施可能となる予定です。

・2020年度以降：研修修了者の臨床現場での活動が開始される予定です。

#### <学会としてのプログラム作成上の方針>

企画部会では以下の方針に沿ってプログラムを作成しています。

1：新制度による認定者養成が麻酔科医の働き方改革につながるプランとする。

2：麻酔科医の業務のなかの定型化した事項(例：病歴や術前検査値のチェック、定型的な麻酔法や合併症の説明、術後の痛みスコアリングや悪心発生の有無のチェックなど)を研修修了者にタスクシフティングすることで、業務の効率化を図る。

(制度に従った術中麻酔管理領域のパッケージ研修に加えて、学会として定型化業務等を行うために必要な研修を付加する)

3：遅滞なく麻酔科専門医の直接的指示が提供される環境下で、麻酔科医の周術期管理業務を補佐するメンバーを養成する。

4：安全管理上エラーが起きやすい環境を改善するためのダブルチェック要員を養成する。

5：周術期は患者の病態が複数の要因によって変化しやすいことから、手順書による包括的な指示は各対応の初期段階のみとし、その後は基本的に直接的指示を要するフローとする。

6：本学会認定の周術期管理チーム看護師では相当の受講単位の「読み替え」ができるようにする。それにより、今回の特定行為群研修が現存の周術期管理チーム認定者にとってステップアップ研修として位置づけられるようにする。

7：本研修修了者の活動拡大が、政府の推進する「医師の働き方改革」に資することをアピールし、周術期管理チームあるいは周術期管理センターの活動が診療報酬上評価を受けられるよう要望する。

8：積極的な広報活動で研修希望者を募り、研修修了者の活動による臨床現場での効果を検証する。

#### <各施設の対応と協力のお願ひ>

企画部会では今後の作業の進展を随時会員にお知らせします。次年度早々には、研修プログラム案（時間・単位配分表、手順書、他の資格認定者に対する単位読み替え例など）を作成し希望する学会認定医療機関等に資料として提供する予定です。特定行為群研修の申請受付が開始された折には、研修実施を希望する医療機関は、本学会が作成した研修プログラム例を入手し必要事項を追記した上で厚生労働省（申請書の提出先は厚生局）に申請することになります。

なお、学会が提供するプログラムや単位表などを改変して医療機関独自のものとして申請することも可能です。（この場合も厚労省が定める特定行為研修の基準（法律、省令、通知）を満たしている必要があります。）また、特定行為研修を修了した看護師が研修した全ての項目を現場で実施する必要はありません。医療機関内の配属部署ごとに現場のニーズに即した項目のみを選択し、実施、運用することができます。

#### 参考：「特定行為とは」

看護師による特定行為とは、診療の補助であり、医療機関が作成し、厚生労働省が定める基準を満たした手順書（いわゆる包括的な指示書）に従えば、所定の研修を修了した看護師が医師の直接的な指示がなくても当該行為を実施できるというものです。手順書に書かれた病状の範囲内であれば、看護師の判断で診療の補助行為を実施できるため、必要な時にタイムリーに患者に医療を提供することができます。

研修計画は基本的には特定行為研修の基準に従って養成を希望する個々の医療機関等が作成し、厚生労働省から承認を受けることになっていますが、現在もいくつかの病院団体等が基本パターンや教材を作成し、希望する病院に素材として資料提

供しています。また、客観的に質の担保された研修制度での教育プログラム修了者は既習の項目に関して受講単位の「読み替え」を行なってよいことになっており、日本看護協会認定看護師、看護系大学院修士課程修了者等は受講時間の短縮が可能となっています。

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
（総括・分担）研究報告書

周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究  
齋藤 繁 国立大学法人群馬大学 大学院医学系研究科・教授  
川口 昌彦 公立大学法人奈良県立医科大学・麻酔科学教室・教授  
廣瀬 宗孝 学校法人兵庫医科大学・麻酔科学・疼痛制御科学講座・主任教授

## 研究要旨

医師ならびに医療スタッフの働き方改革の呼び声のもと、急性期医療の業務の効率化が進められている。周術期管理の多職種連携もその重要な推進事項である。周術期管理チームは、急性期医療に従事するスタッフ不足の中で、病院で働く多職種の人々がお互いの専門性を活かしながら情報共有して、チームとして患者を支援するシステムである。周術期医療の現場で活動している多くの看護師が「周術期管理チーム制度」や「特定行為研修制度」を効率的に活用し、安全で専門性の高い周術期医療の実践を通じて国民医療に貢献できるよう、本厚生労働科学研究では、特に活用するためのマテリアル作成を行い、あわせて当該研修の必要度を医療現場の担当者に対するアンケート形式により調査を行う。特定行為カリキュラムの作成が必須であるため、資料の通り作成した。

### A．研究目的

医師ならびに医療スタッフの働き方改革の呼び声のもと、急性期医療の業務の効率化が進められている。周術期管理の多職種連携もその重要な推進事項である。医療機関での業務は医療の高度化に伴い、非常に分業的になりつつある。医療スタッフがそれぞれ専門性の高い業務を真摯にそして先鋭的に実践すればするほど、継続性が希薄になり、不必要に類似作業が繰り返されたり、情報伝達ミスによるトラブルの発生を招く。周術期管理という概念はこうした傾向を回避するためのもので、侵襲的医療行為の前後を含め一貫した医療を実践しようというものである。

昨今、急性期医療が集約化されてきたことで大学病院や各地域基幹病院での手術症例、麻酔症例は大きく増加している。その上、侵襲的医療を受ける患者の高齢化や重症化が進み、周術期医療の安全確保にはこれまでも増して細心の注意が求められている。周術期管理チームは、急性期医療に従事するスタッフ不足の中で、病院で働く多職種の人々がお互いの専門性を活かしながら

ら情報共有して、チームとして患者を支援するシステムである。チームメンバーのそれぞれが綿密に連携を図りながら得意な領域を担当することにより、個別に同様の問診や処置を繰り返すことなく、専門性の高い医療を安全で合理的に実践することを目指している。

そうした周術期管理体制整備への社会的需要に応えるべく、日本麻酔科学会は2007年に「周術期管理チーム」構想を打ち出した。2014年秋には、第1回目の認定試験を資格を有している看護師対象に開始した。さらに、2016年からは薬剤師、2017年からは臨床工学技士の認定へと着実な周術期管理チームメンバーの養成を進めている。2019年4月時点で1908名の看護師をチームメンバーとして認定している。

周術期医療の現場で活動している多くの看護師が「周術期管理チーム制度」を活用し、安全で専門性の高い周術期医療の実践を通じて国民医療に貢献することを期待する。

本厚生労働科学研究では、特に特定行為研修の制度を効率的に活用するためのマテリアル作成を行い、特にカリキュラムを作成することを目的とした。

### B．研究方法

様々な資料を収集し、周術期管理チームの活動とそれに関わる特定行為研修の概要に関して説明文書を作成する。特に特定行為研修の指定研修期間になるための申請文書の具体例を作成し、関係施設での理解を深める。基幹研修施設が使用できるカリキュラムを試作する。

### C．研究結果

周術期管理に関する特定行為のうち、術中管理パッケージに関して添付資料の文書を作成した。当該文書への評価を学術集会発表での質疑、アンケートへの回答で収集し、解析した。

### D．健康危険情報

E．研究発表事業の成果物として「周術期特

定行為研修について」(令和元年9月 公益社団法人 日本麻酔科学会 編)を作成した。

以下の学会発表を行った

## 2. 学会発表

2019年5月31日 日本麻酔科学会第66回学術集会シンポジウム「周術期管理チームと特定行為研修」発表者： 齋藤繁(座長) 廣瀬宗孝、内藤祐介、石橋まゆみ

2019年6月1日第66回日本麻酔科学会年次学術集会 シンポジウム「周術期管理を担う医療従事者を如何に集めるか」

2019年9月27日 第41回日本手術医学会総会 「周術期管理における各職種の役割」

## F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

共通科目の内容（医道審議会 保健師助産看護分科特定行為・研修部会『特定行為研修の研修内容等に関する意見』より抜粋）

| 科目          | 学ぶべき事項  | 時間 |
|-------------|---|----|
| 臨床病態生理学     | 臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ<br>1. 臨床解剖学<br>2. 臨床病理学<br>3. 臨床生理学  | 30 |
| 臨床推論        | 臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ<br>1. 診断のプロセス<br>2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習<br>3. 医療面接の理論と演習・実習<br>4. 各種臨床検査の理論と演習<br>心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査<br>5. 画像検査の理論と演習<br>放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT・MRI/その他の画像検査<br>6. 臨床疫学の理論と演習 | 45 |
| フィジカルアセスメント | 身体診察・診断学（演習含む）を学ぶ<br>1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習<br>2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習<br>身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱/泌尿・生殖器/乳房・リンパ節/神経系<br>3. 身体診察の年齢による変化<br>小児/高齢者<br>4. 状況に応じた身体診察<br>救急医療/在宅医療  | 45 |
| 臨床薬理学       | 薬剤学、薬理学を学ぶ<br>1. 薬物動態の理論と演習<br>2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習<br>3. 主要薬物の相互作用の理論と演習<br>4. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習<br>年齢による特性（小児/高齢者）を含む  | 45 |
| 疾病・臨床       | 主要疾患の病態と臨床診断・治療を学ぶ  | 30 |

|       |  |    |
|-------|--|----|
| 病態概論  | <p>主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論</p> <p>循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/運動器系/感覚器系/感染症/その他</p>   |    |
|       | <p>状況に応じた臨床診断・治療を学ぶ</p> <p>1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習</p> <p>2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習</p>  | 10 |
| 医療安全学 | <p>特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ</p> <p>1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ</p> <p style="padding-left: 40px;">医療倫理</p> <p style="padding-left: 40px;">医療管理</p> <p style="padding-left: 40px;">医療安全</p> <p style="padding-left: 40px;">ケアの質保証</p> <p>2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（Inter Professional Work（IPw））（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ</p> <p style="padding-left: 40px;">チーム医療の理論と演習・実習</p> <p style="padding-left: 40px;">チーム医療の事例検討</p> <p style="padding-left: 40px;">コンサルテーションの方法</p> <p style="padding-left: 40px;">多職種協働の課題</p> <p>3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ</p> <p style="padding-left: 40px;">特定行為関連法規</p> <p style="padding-left: 40px;">特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習</p> <p>4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ</p> <p style="padding-left: 40px;">手順書の位置づけ</p> <p style="padding-left: 40px;">手順書の作成演習</p> <p style="padding-left: 40px;">手順書の評価と改良</p> | 45 |

## 区分別科目の内容

以下の表の左欄に掲げる区分別科目は右欄に掲げる時間数以上であることとする。

また、現行では、区分別科目の時間内で実習を行うこととしているが、区分別科目の時間とは別に、行為の難度に応じて5例又は10例程度の症例数で実習を行うこととする。

| 特定行為区分             | 学ぶべき事項   | 時間 |
|--------------------|--|----|
| 呼吸器（気道確保に係るもの）関連   | 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整<br>1. 気道確保に関する局所解剖<br>2. 気管挿管の目的、適応と禁忌<br>3. 気管チューブの位置の評価法、調整の目的<br>4. 気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント<br>5. 気管チューブの位置の調整に関する病態生理<br>6. バックバルブマスク（BVM）を用いた用手換気<br>7. 気管チューブの位置の調整の手技<br>8. 気管チューブの位置の調整に伴うリスク（有害事象とその対策等） | 9  |
| 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 | 侵襲的陽圧換気の設定の変更<br>1. 人工呼吸療法の目的、適応、禁忌<br>2. 肺胞におけるガス交換の生理学<br>3. 人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理<br>4. 人工呼吸療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント<br>5. 麻酔器・人工呼吸器のメカニズム（構造・種類・モード）<br>6. 人工呼吸器の設定の確認<br>7. 人工呼吸器の設定とその変更<br>8. 人工呼吸器の設定変更に伴うリスク（有害事象とその対策等）                    | 17 |
|                    | 人工呼吸器からの離脱<br>1. 人工呼吸器からの離脱の目的<br>2. 人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌<br>3. 人工呼吸器からの離脱可能性の評価方法<br>4. 人工呼吸器からの離脱の方法<br>5. 人工呼吸器離脱後の評価方法   |    |

|                   |   |    |
|-------------------|---|----|
|                   | 6. 人工呼吸器からの離脱に伴うリスク（有害事象とその対策等）   |    |
| 動脈血液ガス分析関連        | <p>直接動脈穿刺法による採血</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動脈穿刺法に関する局所解剖</li> <li>2. 動脈穿刺法に関するフィジカルアセスメント</li> <li>3. 超音波検査による動脈と静脈の見分け方</li> <li>4. 動脈血採取が必要となる検査</li> <li>5. 動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態</li> <li>6. 直接動脈穿刺法による採血の適応と禁忌</li> <li>7. 患者に適した穿刺部位の選択</li> <li>8. 穿刺部位と穿刺に伴うリスク（有害事象とその対策等）</li> </ol>                         | 13 |
|                   | <p>橈骨動脈ラインの確保</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動脈ラインの確保の目的、適応と禁忌</li> <li>2. 患者に適した穿刺及び留置部位の選択</li> <li>3. 動脈穿刺時に必要な消毒と感染予防</li> <li>4. 穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク（有害事象とその対策等）</li> </ol>   |    |
| 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 | <p>脱水症状に対する輸液による補正</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脱水症状の原因と分類</li> <li>2. 脱水症状の病態生理</li> <li>3. 脱水や低栄養状態に関する主要症候</li> <li>4. 脱水症状に関するフィジカルアセスメント</li> <li>5. 脱水症状に対する輸液による補正に必要な輸液の種類と臨床薬理</li> <li>6. 輸液時に必要な検査</li> <li>7. 脱水症状に対する輸液による補正の適応と使用方法、副作用</li> <li>8. 輸液療法の計画方法</li> <li>9. 輸液による補正のリスク（有害事象とその対策等）</li> </ol> | 10 |
| 術後疼痛管理関連          | <p>硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 硬膜外麻酔に関する局所解剖</li> <li>2. 硬膜外麻酔の目的、適応と禁忌</li> <li>3. 硬膜外麻酔を要する主要疾患の病態生理</li> <li>4. 硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメント</li> <li>5. 局所麻酔薬の種類と臨床薬理</li> <li>6. 局所麻酔薬の選択と投与量</li> </ol>  | 8  |

|               |   |    |
|---------------|---|----|
|               | 7. 硬膜外麻酔に伴うリスク（有害事象とその対策等）  |    |
| 循環動態に係る薬剤投与関連 | 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整<br>1. 輸液療法の目的と種類<br>2. 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌<br>3. 高血糖・低血糖の主要徴候とフィジカルアセスメント<br>4. 電解質不足・過剰時の主要徴候とフィジカルアセスメント<br>5. 糖質輸液、電解質輸液の種類と臨床薬理<br>6. 各種糖質輸液、電解質輸液の適応と使用方法<br>7. 各種糖質輸液、電解質輸液の副作用<br>8. 各種糖質輸液、電解質輸液の投与計画<br>9. 持続点滴中の糖質輸液、電解質輸液の投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等） | 10 |

#### 作成者補足

- ・ 基本的に、第6回看護師特定行為・研修部会『特定行為及び特定行為研修の基準等に関する意見（案）』（平成26年12月17日公表）を元に作成。
- ・ 共通部分に関しては、外科パッケージや慢性期パッケージとの兼ね合いもあり、変更は望まれていないと思われるので、そのまま現行のものを流用した。
- ・ 区分別に関しては、パッケージ化したことにより、重複する内容を削除した（例：「挿管チューブの位置調整」と「人工呼吸の変更」の両方に気道に関する局所解剖の項目があるなど）
- ・ 重複部分を削除後、提示された時間数に比較して明らかに内容が少ない部分は追加した（赤字部分に相当）
- ・ 今回の改定より実習は規定時間とは別に行うこととなっているが、従前より存在した演習、試験の扱いは記載がない。講義例（エクセルファイル）では、試験は講義時間内にカウントしている。
- ・ 周術期パッケージで学習するにあたり、特定行為には含まれないが知っておくべき知識についてもパッケージ化したらどうかという提案が今までの会議であった。そのため、必須ではないが、オプションとしてパッケージ全体の共通講義の案も合わせて提示した。

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
（総括・分担）研究報告書

周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究  
齋藤 繁 国立大学法人群馬大学 大学院医学系研究科・教授  
長坂 安子 聖路加国際病院・麻酔科・部長  
石橋 まゆみ 学校法人昭和大学・総務部経営戦略情報室・主幹

## 研究要旨

医師ならびに医療スタッフの働き方改革の呼び声のもと、急性期医療の業務の効率化が進められている。周術期管理の多職種連携もその重要な推進事項である。周術期管理チームは、急性期医療に従事するスタッフ不足の中で、病院で働く多職種の人々がお互いの専門性を活かしながら情報共有して、チームとして患者を支援するシステムである。周術期医療の現場で活動している多くの看護師が「周術期管理チーム制度」や「特定行為研修制度」を効率的に活用し、安全で専門性の高い周術期医療の実践を通じて国民医療に貢献できるよう、本厚生労働科学研究では、特に活用するためのマテリアル作成を行い、あわせて当該研修の必要度を医療現場の担当者に対するアンケート形式により調査を行う。周術期管理に関する特定行為のうち、術中管理パッケージに関して特定行為プログラムの作成が必須であるため、資料の通り作成した。

### A．研究目的

医師ならびに医療スタッフの働き方改革の呼び声のもと、急性期医療の業務の効率化が進められている。周術期管理の多職種連携もその重要な推進事項である。医療機関での業務は医療の高度化に伴い、非常に分業的になりつつある。医療スタッフがそれぞれ専門性の高い業務を真摯にそして先鋭的に実践すればするほど、継続性が希薄になり、不必要に類似作業が繰り返されたり、情報伝達ミスによるトラブルの発生を招く。周術期管理という概念はこうした傾向を回避するためのもので、侵襲的医療行為の前後を含め一貫した医療を実践しようという

様々な資料を収集し、周術期管理チームの活動とそれに関わる特定行為研修の概要に関して説明文書を作成する。特に特定行為研修の指定研修期間になるための申請

ものである。

昨今、急性期医療が集約化されてきたことで大学病院や各地域基幹病院での手術症例、麻酔症例は大きく増加している。その上、侵襲的医療を受ける患者の高齢化や重症化が進み、周術期医療の安全確保にはこれまでも増して細心の注意が求められている。周術期管理チームは、急性期医療に従事するスタッフ不足の中で、病院で働く多職種の人々がお互いの専門性を活かしながら情報共有して、チームとして患者を支援するシステムである。チームメンバーのそれぞれが綿密に連携を図りながら得意な領域を担当することにより、個別に同様の問診や処置を繰り返すことなく、専門性の高い医療を安全で合理的に実践することを目指している。

そうした周術期管理体制整備への社会的需要に応えるべく、日本麻酔科学会は2007年に「周術期管理チーム」構想を打ち出した。2014年秋には、第1回目の認定試験を資格を有している看護師対象に開始した。さらに、2016年からは薬剤師、2017年からは臨床工学技士の認定へと着実の周術期管理チームメンバーの養成を進めている。2019年4月時点で1908名の看護師をチームメンバーとして認定している。

周術期医療の現場で活動している多くの看護師が「周術期管理チーム制度」を活用し、安全で専門性の高い周術期医療の実践を通じて国民医療に貢献することを期待する。

本厚生労働科学研究では、特に特定行為研修の制度を効率的に活用するためのマテリアル作成を行い、特にプログラムを作成することを目的とした

### B．研究方法

文書の具体例を作成し、関係施設での理解を深める。基幹研修施設が使用できるプログラムを試作する。

## C．研究結果

周術期管理に関する特定行為のうち、術中管理パッケージに関して添付資料の文書を

## D．健康危険情報

なし

## E．研究発表

本事業の成果物として「周術期特定行為研修について」(令和元年9月 公益社団法人日本麻酔科学会 編)を作成した。

以下の学会発表を行った

### 2. 学会発表

2019年5月31日 日本麻酔科学会第66回学術集会シンポジウム「周術期管理チームと特定行為研修」発表者： 齋藤繁(座長)、廣瀬宗孝、内藤祐介、石橋まゆみ

作成した。当該文書への評価を学術集会発表での質疑、アンケートへの回答で収集し、解析した。

2019年6月1日第66回日本麻酔科学会年次学術集会 シンポジウム「周術期管理を担う医療従事者を如何に集めるか」

2019年9月27日 第41回日本手術医学会総会 「周術期管理における各職種の役割」

## F．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

# 術中麻酔管理領域の特定行為研修者の研修の流れ（案）

（日本麻酔科学会による術中麻酔管理領域の特定行為修了証交付が許可される場合を想定）

2019年3月31日  
日本麻酔科学会周術期特定行為群  
研修企画部会・研修プログラム作成WG  
部会長・WG長：齋藤 繁  
担当委員：長坂安子

## 1. 緒言

厚生労働省平成27年度看護職員確保対策特別事業の一環として平成30年度より術中麻酔管理領域に特化した特定行為の研修制度を日本麻酔科学会が作成することが決定された。

## 2. 目的

日本で麻酔を受ける患者の安全のため、また麻酔科学の発展と拡充のために、周術期における特定行為研修の流れとその内容を日本麻酔科学会が制定する。

## 3. 研修の流れ

### 1) 【研修対象】

急性期領域（手術室・集中治療室・救急部）における臨床経験を2年以上有する**特定**看護師で、日本麻酔科学会周術期管理チーム認定看護師資格取得をした者

理由：急性期領域の看護経験が麻酔業務に携わる上で必須とした。年数に関しては、最低でも周術期管理チーム認定看護師資格の取得要項を満たすことが必要と考え2年とした。

日本麻酔科学会周術期管理チーム認定看護師資格を求める理由は、麻酔科の医師は厚生労働省が標榜医制度設けているほどに特殊な分野であり、医師であれば誰でも標榜してよい診療科ではない。同様に、看護師も臨床経験さえあれば術中麻酔管理領域の特定行為研修を受講すれば麻酔管理業務に携わることができるものではないという認識による。

### 2) 【研修内容：座学・演習・実習】

2)-1\*\*\*日本麻酔科学会周術期特定行為群研修企画部会・研修プログラム作成案をここに挿入\*\*\*

以下厚生労働省の求める研修パッケージを転記した。

1. 共通科目（2018年12月17日版では250時間に短縮された）

臨床病態生理学（講義・演習）

臨床推論（講義・演習・実習（医療面接））

フィジカルアセスメント（講義・演習・実習（身体診察手技））

臨床薬理学（講義・演習）

疾病・臨床病態概論（講義・演習）

医療安全学（講義・演習・実習（医療安全））

特定行為実践（講義・演習・実習（チーム医療））

2. 区分別科目：66 時間（6 区分 8 行為）

呼吸器（気道確保に係るもの）関連

経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整

呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連

侵襲的陽圧換気の設定の変更

人工呼吸器からの離脱

動脈血液ガス分析関連

直接動脈穿(セン)刺法による採血

橈(トウ)骨動脈ラインの確保

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

脱水症状に対する輸液による補正

術後疼痛管理関連

硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整

循環動態に係る薬剤投与関連

持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整

3. 症例：区分別科目 8 行為につき各 5 症例

解説：日本麻酔科学会周術期管理チーム認定看護師資格取得者が研修をおこなうことを日本麻酔科学会として必須と定義することが前提となる。以下表 1 に記す我が国の麻酔に特化した看護師の研修制度を修了した者については、受講免除規定を設けた。

3) 【研修に追加すべき内容】

研修修了後に、日本麻酔科学会による修了試験を受験する

研修中に患者に合併症が発生したときの対応と研修時の責任範囲を明記すること

対象患者にインフォームドコンセントをおこなう（廣瀬先生案）

理由：特定行為研修パッケージは主に手技に特化した研修内容である。在宅や病棟のように患者の変化する時間がより長い部署、あるいは救急部のように何割かの重症患者はそれ以上の改善が期待できない、あるいは特定行為によるリスクが十分に認知されている部署での業務とちがひ、ほとんどの麻酔業務は予定手術であり 100%に近い安全性が求められる。麻酔中の特定行為は、該当疾患に対する処置ではないため、麻酔中の合併症は麻酔管理によるものであると認識されることが多い。このため、研修中に合併症が発症した時の対応とインフォームドコンセントは日本麻酔科学会が研修のながれを規定するうえで最も重要である。

4) 【術中麻酔管理領域領域特定行為修了証】

日本麻酔科学会による修了試験合格した者に授与する。  
 修了証は、日本麻酔科学会で管理する通し番号を記載する。  
 指定研修機関長（病院長）とその指導医師名、そして麻酔科学会理事長名の連名の発行とする。

【研修修了者の登録】

修了合格者の登録は日本麻酔科学会でおこない、総数の把握と勤務先、勤務内容他項目を設定し更新規定に盛り込む。

理由：麻酔科の医師は厚生労働省が標榜医制度設けているほどに特殊な分野であり、医師であれば誰でも標榜してよい診療科ではない。同様に、看護師も臨床経験さえあれば術中麻酔管理領域の特定行為研修を受講すれば麻酔管理業務に携わることができるものではないという認識による。

5) 【研修修了者の更新】

5 年毎の申請

更新要件：

日本麻酔科学会学術集会参加歴：必要ポイント数の制定

日本麻酔科学会の主催するリフレッシャーコース受講歴：必要ポイント数の制定

診療実績届け：術中麻酔管理領域における特定行為の更新は、診療実績として麻酔のはじめからおわりまで携わった年間症例数が 100 例以上

（理由：臨床能力維持のために、週 1-2 日手術室にて 1 日 1-2 件の麻酔を担当することが目安とした）

理由：麻酔科学は日進月歩であるため、すでに習得した手技だけでなく新しいエビデンスを身につけておく必要がある。質の担保のために、日本麻酔科学会による定期的な更新が必要とした。

表 1. 我が国の麻酔に特化した看護師の研修制度の比較（2019 年 3 月 31 日現在）

| 研修修了者の名称 | 術中麻酔管理領域における特定行為（案） | 周術期管理チーム看護師 | 手術看護認定看護師 | 特定行為研修修了者      | 麻酔科日本版 NP      | 日本周麻酔期看護師   |
|----------|---------------------|-------------|-----------|----------------|----------------|-------------|
| 創設       | 2019 年              | 2014 年      | 2004 年    | 2015 年         | 2011 年         | 2010 年      |
| 団体       | 日本麻酔科学会             | 日本麻酔科学会     | 日本看護協会    | 日本看護協会、各指定研修機関 | 日本 NP 教育大学院協議会 | 日本周麻酔期看護医学会 |

|                     |  |  |   |  |  |  |
|---------------------|--|--|---|--|--|--|
| 研修<br>の正<br>式名<br>称 | 未定   | 周術期管理<br>チーム認定<br>制度                     | 認定看護<br>師   | 急性期周<br>術期コー<br>ス  | 大学院修<br>士課程  | 大学院<br>修士課<br>程 周<br>麻酔期<br>看護学                      |
| 特定<br>行為            | ○  | 予定                                       | 予定  | ○  | ○  | 予定   |
| 研修<br>期間            | 6ヶ月-1<br>年   | なし<br>(試験の<br>み)                         | 6ヶ月   | 6ヶ月-1<br>年   | 2年<br>大学院修<br>士課程  | 2年<br>大学院<br>修士課<br>程                                |
| 研修<br>内容            | 座学・演<br>習・実習<br>(座学の<br>一部はe-<br>learning<br>受講)                           | セミナー受<br>講、学会参<br>加                      | 講義、実<br>習   | 座学・演<br>習・実習<br>(座学の<br>多くはe-<br>learning<br>)                                       | 大学院教<br>育(全診<br>療科)、<br>座学・演<br>習・実習   | 大学院<br>教育<br>(麻酔<br>科学に<br>特化)、<br>座学・<br>演習・<br>実習  |
| 応募<br>要件            | 日本麻酔<br>科学会周<br>術期管理<br>チーム看<br>護師であ<br>ること                                | 看護師で2<br>年以上の手<br>術室、周術<br>期管理セン<br>ター勤務 | 看護師で<br>3年間の<br>手術室勤<br>務(看護<br>師5年以<br>上)  | 看護師で<br>5年以上<br>の看護経<br>験  | 看護師で<br>5年以上<br>の看護経<br>験  | 看護師で2<br>年以上の<br>急性期<br>領域勤<br>務                     |
| 資格<br>取得<br>方法      | 日本麻酔<br>科学会に<br>よる修了<br>試験合格   | 認定試験                                     | 認定試験  | 修了試験   | 大学院修<br>士課程終<br>了<br>+ 認定試<br>験  | 大学院<br>修士課<br>程終了                                    |
| 研修<br>教育<br>機関      | 日本麻酔<br>科学会周<br>術期特定<br>行為群研<br>修企画部<br>会・研修<br>プログラ<br>ム作成案<br>をここに<br>挿入 | 日本麻酔科<br>学会、日本<br>手術看護学<br>会             | 2 機関<br>(2019<br>年4月1<br>日現在)<br>学校法人<br>兵庫医科<br>大学医療<br>人育成研<br>修センタ<br>ー認定看<br>護師教育 | 特定行為<br>区分：呼<br>吸器<気<br>道確保><br>の研修実<br>施指定機<br>関数は全<br>国39機<br>関。<br>2018/8<br>現在医政 | 9 大学<br>院：日本<br>NP教育<br>大学院協<br>議会HP<br>より(愛<br>知医大、<br>東京医療<br>保健、大<br>分県立看<br>護、国際 | 大学<br>院：聖<br>路加国<br>際大学、<br>横浜市<br>立大学、<br>信州大<br>学他 |

|           |  |                         |                            |   |          |                                   |
|-----------|--|-------------------------|----------------------------|---|----------|-----------------------------------|
|           |  |                         | 課程、東京女子医科大学看護学部認定看護師教育センター | 局・看護課調べ（自治医科大学、奈良県立医科大学、滋賀県立医科大学他）                            | 医療福祉大学他） |                                   |
| 総数        | 未定   | 1709名<br>（2018/4/1の時点で） | 591名登録<br>（2018/7の時点で）     | 506名<br>（特定行為区分：呼吸器＜気道確保＞の研修修了者数：2018年3月第18回看護師特定行為・研修部会資料より） | 情報なし     | 22名以上                             |
| 実際に働く医療機関 | 日本麻酔科学会が求める条件：日本麻酔科学会麻酔研修指定病院（必須）で、日本麻酔科学会麻酔専門医・指導医の直接指示が受けられる医療機関 | 情報なし                    | 全国 572 病院、1 診療所、5 学校・大学等。  | 情報なし  | 情報なし     | 聖路加国際大学、横浜市立大学、信州大学、鳥取大学、九州地方の病院他 |

|                               |   |                          |                               |                      |  |                                     |
|-------------------------------|---|--------------------------|-------------------------------|----------------------|--|-------------------------------------|
|                               | (必須)とする   |                          |                               |                      |  |                                     |
| 術中麻酔管理領域領域における特定行為についての受講免除規定 |   | 受講必須                     | 受講必須                          | 区分別科目のみ受講必須(共通項目は免除) | 研修内容は、2年間の大学院修士課程の教育内容に含まれているため、ほぼすべて講習を受講免除とする(理由:乗り換え事項表 2-1、2-2を参照) |                                     |
| 更新方法                          | 5年毎更新<br>更新要件:<br>日本麻酔科学会<br>学術集会<br>参加歴<br>日本麻酔科学会<br>の主催するリフレ<br>ッシャー<br>コース受<br>講歴:必<br>要ポ<br>イント<br>数の制<br>定<br>診療実<br>績届け:<br>麻酔の<br>はじ<br>めか<br>らお<br>わり<br>ま<br>で携<br>わっ | 3年毎の申請(セミナー受講、手術看護学会参加歴) | 5年ごとに更新(看護実践と自己研鑽の実績について書類審査) | なし                   | 5年毎に更新(診療実績 2000時間、社会活動ポイント 50点)                                       | 日本周麻酔期看護学会年次集会への出席(奨励)今後資格認定を設定する予定 |

|  |   |  |  |  |  |  |
|--|---|--|--|--|--|--|
|  | た年間症<br>例数が<br>100 例以<br>上、5 年<br>間で 500<br>例以上で<br>あること<br>(案) |  |  |  |  |  |
|--|---|--|--|--|--|--|

表 2：研修プログラムと周麻酔期看護学の大学院修士課程に履修する講義・実習・演習内容の比較（川口先生・内藤先生案に追記）

表 2-1：共通科目

| 共通科目        | 学ぶべき事項  | 日本麻酔科学会周術期特定行為群研修企画部会・研修プログラム作成案（川口先生・内藤先生案を用いています） | 例：日本周麻酔期看護師シラバス（聖路加国際大学版）  |
|-------------|---|---|--|
|             |   | 規定時間  | 規定時間   |
| 臨床病態生理学     | 臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ<br>1. 臨床解剖学<br>2. 臨床病理学<br>3. 臨床生理学  | 30  | 30<br>聖路加大学院シラバス：<br>病態生理学   |
| 臨床推論        | 臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ<br>1. 診断のプロセス<br>2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習<br>3. 医療面接の理論と演習・実習<br>4. 各種臨床検査の理論と演習<br>心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査<br>5. 画像検査の理論と演習<br>放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT・MRI/その他の画像検査<br>6. 臨床疫学の理論と演習 | 45  | 144<br>聖路加大学院シラバス：<br>診断・治療学：<br>30 時間、看護学研究法：30 時間、周麻酔期看護学特論、演習 . . .<br>：84 時間 |
| フィジカルアセスメント | 身体診察・診断学（演習含む）を学ぶ<br>1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習<br>2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習<br>身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱/泌尿・生殖器/乳房・リンパ節/神経系   | 45  | 48<br>聖路加大学院シラバス：<br>フィジカルアセスメント：30 時間、周麻酔期看護学演習 . . .<br>：18 時間                 |

|           |   |    |   |
|-----------|---|----|---|
|           | <p>3. 身体診察の年齢による変化<br/>小児/高齢者</p> <p>4. 状況に応じた身体診察<br/>救急医療/在宅医療</p>  |    |   |
| 臨床薬理学     | <p>薬剤学、薬理学を学ぶ</p> <p>1. 薬物動態の理論と演習</p> <p>2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習</p> <p>3. 主要薬物の相互作用の理論と演習</p> <p>4. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習</p> <p>年齢による特性（小児/高齢者）を含む</p>                             | 45 | 60<br>聖路加大学院シラバス：<br>臨床薬理学：30時間、周麻酔期看護学特論、演習：30時間                               |
| 疾病・臨床病態概論 | <p>主要疾患の病態と臨床診断・治療を学ぶ</p> <p>主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論</p> <p>循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/運動器系/感覚器系/感染症/その他</p>  | 30 | 30<br>聖路加大学院シラバス：<br>診断・治療学：30時間  |
|           | <p>状況に応じた臨床診断・治療を学ぶ</p> <p>1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習</p> <p>2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習</p>   | 10 | 18<br>聖路加大学院シラバス：<br>周麻酔期看護学演習：18時間   |
| 医療安全学     | <p>特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ</p> <p>1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ</p> <p>医療倫理<br/>医療管理<br/>医療安全<br/>ケアの質保証</p> | 45 | 51<br>聖路加大学院シラバス：<br>生命倫理：30時間、周麻酔期看護学特論：9時間、演習：12時間<br>（特定行為関連は一部補習必要：左第3、4項目） |

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
|  | <p>2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（Inter Professional Work (IPw)）（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ</p> <p>チーム医療の理論と演習・実習<br/> チーム医療の事例検討<br/> コンサルテーションの方法<br/> 多職種協働の課題</p> <p>3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ</p> <p>特定行為関連法規<br/> 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習</p> <p>4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ</p> <p>手順書の位置づけ<br/> 手順書の作成演習<br/> 手順書の評価と改良</p> |  |  |
|--|--|--|--|

表 2-2：区分別科目

|         |            |      |      |    | 日本麻酔科学会周術期特定行為群研修企画部会・研修プログラム作成案（川口先生・内藤先生案を用いています） | 例：日本周麻酔期看護師シラバス（聖路加国際大学大学院修士課程版*） |                |              |
|---------|------------|------|------|----|---|-----------------------------------|----------------|--------------|
|         | 講義時間(試験含む) | 演習時間 | 実習時間 | 合計 | 規定時間(座学)  | 症例数                               | 規定時間(座学)       | 症例数          |
| A. 気道確保 | 9          | 1    | 5    | 15 | 9 時間  | 5 症例                              | 15 時間(シラバス該当項) | 18 時間(演習)演習に |

|        |    |   |    |    |      |      |   |  |
|--------|----|---|----|----|------|------|---|--|
|        |    |   |    |    |      |      | 目：周麻酔期看護学特論（3hx1回）<br>（3hx1回）<br>（3hx1回）<br>演習6hx1回・6hx1回・6hx1回、実習-周麻酔期看護学） | て54症例、実習にて10症例以上（シラバス該当項目：周麻酔期看護学演習6hx1回・6hx1回・6hx1回、実習-周麻酔期看護学） |
| B.人工呼吸 | 17 | 2 | 10 | 29 | 17時間 | 10症例 | 27時間（シラバス該当項目：周麻酔期看護学特論3hx1回・3hx1回・3hx1回・3hx2回回、演習6hx2回）                    | 18時間（演習）演習にて36症例、実習にて10症例以上（シラバス該当項目：周麻酔期看護学演習6hx1回・6hx2回、実習-    |

|             |    |   |    |    |       |       |   |   |
|-------------|----|---|----|----|-------|-------|---|---|
|             |    |   |    |    |       |       |   | 周麻酔<br>期看護<br>学)  |
| C. 動脈<br>穿刺 | 13 | 2 | 10 | 25 | 13 時間 | 10 症例 | 21 時間<br>(シラ<br>バス該<br>当項<br>目：周<br>麻酔期<br>看護学<br>特論<br>3<br>hx1、<br>演習<br>6hx1<br>回・<br>6hx1<br>回・<br>6hx1<br>回) | 演習実<br>習シラ<br>バス該<br>当なし  |
| D. 栄養       | 10 | 1 | 5  | 16 | 10 時間 | 5 症例  | 12 時間<br>(シラ<br>バス該<br>当項<br>目：周<br>麻酔期<br>看護学<br>特論<br>3hx1<br>回・III<br>3hx1<br>回、演<br>習<br>6hx1<br>回)           | 12 時間<br>(演<br>習)<br>演習に<br>て24<br>症例、<br>実習に<br>て20<br>症例以<br>上(シ<br>ラバス<br>該当項<br>目：周<br>麻酔期<br>看護学<br>演習<br>6hx1<br>回・<br>6hx1<br>回、実<br>習-周 |

|            |    |   |   |    |       |      |  |   |
|------------|----|---|---|----|-------|------|--|---|
|            |    |   |   |    |       |      |  | 麻醉期<br>看護<br>学)   |
| E. 硬膜<br>外 | 8  | 1 | 5 | 14 | 8 時間  | 5 症例 | 9 時間<br>(シラ<br>バス該<br>当項<br>目：周<br>麻醉期<br>看護学<br>特論<br>3hx1<br>回・<br>3hx1<br>回・<br>3hx1<br>回)        | 6 時間<br>(演<br>習)演<br>習にて<br>12 症<br>例、実<br>習にて<br>10 症<br>例以<br>上<br>(シラ<br>バス該<br>当項<br>目：周<br>麻醉期<br>看護学<br>演習<br>6hx1<br>回、実<br>習-周<br>麻醉期<br>看護<br>学) |
| F.循環<br>薬物 | 10 | 1 | 5 | 16 | 10 時間 | 5 症例 | 15 時間<br>(シラ<br>バス該<br>当項<br>目：周<br>麻醉期<br>看護学<br>特論<br>3hx1<br>回・<br>3hx2<br>回、演<br>習<br>6hx1<br>回) | 12 時間<br>(演<br>習)演<br>習にて<br>24<br>症例、<br>実習に<br>て 20<br>症例以<br>上(シ<br>ラバス<br>該当項<br>目：周<br>麻醉期<br>看護学<br>演習  |

|       |    |   |    |     |  |  |  |   |
|-------|----|---|----|-----|--|--|--|---|
|       |    |   |    |     |  |  |  | 6hx1<br>回・II<br>6hx1<br>回、実<br>習-周<br>麻醉期<br>看護<br>学)   |
| G. 共通 | 10 | 0 | 5  | 15  |  |  | 39 時間<br>(シラ<br>バス該<br>当項<br>目：周<br>麻醉期<br>看護学<br>特論<br>3hx2<br>回・IV<br>3hx6<br>回・<br>3hx1<br>回、演<br>習<br>6hx2<br>回) | 42 時間<br>(演<br>習)<br>実習に<br>て50<br>症例以<br>上(シラ<br>バス<br>該当項<br>目：周<br>麻醉期<br>看護学<br>演習<br>6hx4<br>回・<br>6hx3<br>回、実<br>習-周<br>麻醉期<br>看護<br>学) |
| 合計    | 77 | 8 | 45 | 130 |  |  | 138  | 108   |

\*聖路加国際大学大学院での「実習-周麻醉期看護学」は 270 時間が履修されているが上記表 2-2 には症例数のみ記載した。

以上

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
（総括・分担）研究報告書

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究 |   |
| 齋藤 繁                             | 国立大学法人群馬大学 大学院医学系研究科・教授                     |
| 川真田 樹人                           | 国立大学法人信州大学・大学院医学研究科麻酔科学・教授                  |
| 後藤 隆久                            | 公立大学法人横浜市立大学・大学院医学研究科麻酔科学・教授                |
| 森松 博史                            | 国立大学法人岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科・教授                  |
| 藤野 裕士                            | 国立大学法人大阪大学・大学院医学系研究科・生体統御医学講座麻酔・集中治療医学教室・教授 |
| 藤原 祥裕                            | 学校法人愛知医科大学・麻酔科学講座・教授                        |
| 佐藤 暢一                            | 学校法人東邦大学・医学部医学科麻酔科学講座（大森）・准教授               |

## 研究要旨

医師ならびに医療スタッフの働き方改革の呼び声のもと、急性期医療の業務の効率化が進められている。周術期管理の多職種連携もその重要な推進事項である。周術期管理チームは、急性期医療に従事するスタッフ不足の中で、病院で働く多職種の人々がお互いの専門性を活かしながら情報共有して、チームとして患者を支援するシステムである。周術期医療の現場で活動している多くの看護師が「周術期管理チーム制度」や「特定行為研修制度」を効率的に活用し、安全で専門性の高い周術期医療の実践を通じて国民医療に貢献できるよう、本厚生労働科学研究では、特に活用するためのマテリアル作成を行い、あわせて当該研修の必要度を医療現場の担当者に対するアンケート形式により調査を行う。周術期管理に関する特定行為のうち、術中管理パッケージに関して手順書案の作成が必須であるため、資料の通り作成した。

### A．研究目的

医師ならびに医療スタッフの働き方改革の呼び声のもと、急性期医療の業務の効率化が進められている。周術期管理の多職種連携もその重要な推進事項である。医療機関での業務は医療の高度化に伴い、非常に分業的になりつつある。医療スタッフがそれぞれ専門性の高い業務を真摯にそして先鋭的に実践すればするほど、継続性が希薄になり、不必要に類似作業が繰り返されたり、情報伝達ミスによるトラブルの発生を招く。周術期管理という概念はこうした傾向を回避するためのもので、侵襲的医療行為の前後を含め一貫した医療を実践しようというものである。

昨今、急性期医療が集約化されてきたことで大学病院や各地域基幹病院での手術症例、麻酔症例は大きく増加している。その上、侵襲的医療を受ける患者の高齢化や重症化が

進み、周術期医療の安全確保にはこれまでも増して細心の注意が求められている。周術期管理チームは、急性期医療に従事するスタッフ不足の中で、病院で働く多職種の人々がお互いの専門性を活かしながら情報共有して、チームとして患者を支援するシステムである。チームメンバーのそれぞれが綿密に連携を図りながら得意な領域を担当することにより、個別に同様の問診や処置を繰り返すことなく、専門性の高い医療を安全で合理的に実践することを目指している。

そうした周術期管理体制整備への社会的需要に応えるべく、日本麻酔科学会は2007年に「周術期管理チーム」構想を打ち出した。2014年秋には、第1回目の認定試験を資格を有している看護師対象に開始した。さらに、2016年からは薬剤師、2017年からは臨床工学技士の認定へと着実の周術期管理チームメンバーの養成を進めている。2019年4月時点で1908名の看護師をチームメンバーとして認定している。

周術期医療の現場で活動している多くの看護師が「周術期管理チーム制度」を活用し、安全で専門性の高い周術期医療の実践を通じて国民医療に貢献することを期待する。本厚生労働科学研究では、特に特定行為研修の制度を効率的に活用するためのマテリアル作成を行い、特に手順書案を作成することを目的とした。

### B．研究方法

様々な資料を収集し、周術期管理チームの活動とそれに関わる特定行為研修の概要に関して説明文書を作成する。特に特定行為研修の指定研修期間になるための申請文書の具体例を作成し、関係施設での理解を深める。基幹研修施設が使用できる手順書案を試作する

## C．研究結果

周術期管理に関する特定行為のうち、術中管理パッケージに関して添付資料の文書を作成した。当該文書への評価を学術集会発表での質疑、アンケートへの回答で収集し、

## D．健康危険情報

なし

## E．研究発表

本事業の成果物として「周術期特定行為研修について」(令和元年9月 公益社団法人日本麻酔科学会 編)を作成した。

以下の学会発表を行った

## 2. 学会発表

2019年5月31日 日本麻酔科学  
科第66回学術集会シンポジウム

「周術期管理チームと特定行為研修」

発表者： 齋藤繁(座長)、廣瀬宗孝、  
内藤祐介、石橋まゆみ

2019年6月1日第66回日本麻酔科学会年  
次学術集会 シンポジウム「周術期管理を  
担う医療従事者を如何に集めるか」

2019年9月27日 第41回日本手術医学会  
総会 「周術期管理における各職種の役割」

## F．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他

## 手順書：経口気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. ASA-PS が I または II
2. 経口用又は経鼻用気管チューブが挿入されている**仰臥位患者**



【看護師に診療補助を行わせる患者の病状の範囲】

- 以下の1と2のいずれかの場合で、(1)-(8)が満たされている
1. 気管挿管後の固定時と明らかに気管チューブの深さが異なる場合
  2. 胸部 X 線写真上、気管チューブの深さが不適切な場合
    - (1) ETCO<sub>2</sub> の波形が第 I-III 相まで確認できる
    - (2) 麻酔/鎮静状態に大きな変化がない
    - (3) 血圧、脈拍、体温に著しい変化がない
    - (4) 一回換気量が気管挿管時と著しい変化がない
    - (5) 筋弛緩の効果が維持されている
    - (6) 吸引で血性分泌物がない
    - (7) 頸部の強い屈曲、捻転がない
    - (8) SpO<sub>2</sub> 92%

病状の範囲外

不安定・緊急性あり

⇒ 麻酔科専門医の携帯電話に直接連絡

病状の範囲内

安全・緊急性なし

【診療の補助の内容】

経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整



【特定行為を行う時の確認すべき事項】

- 麻酔/鎮静状態の**変化**
- バイタルサインの**変化**
- SpO<sub>2</sub> の**低下**
- ETCO<sub>2</sub> の波形が第 I-III 相まで確認できない

異常・緊急性あり

⇒ 麻酔科専門医の携帯電話に直接連絡

どれか一項目でもあれば下記の確認を行い**麻酔科専門医に連絡する**

- 気道内圧の著しい増加や低下
- 気道分泌物増加
- 気道出血
- 麻酔回路の異常



【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

麻酔科専門医に連絡



【特定行為を行った後の医師・歯科医師に対する報告の方法】

1. 麻酔科専門医に直接連絡する
2. 特定行為の実施を診療録に記載する

診療の補助の内容(補足)

気管チューブ内外・口腔内の吸引

カフエアを吸引

気管チューブを正しい位置に固定し、カフエアを再注入

呼吸音の確認

## 手順書：侵襲的陽圧換気の設定の変更

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. ASA-PS が I または II
2. 侵襲的陽圧換気が実施されている患者



【看護師に診療の補助を行わせる病状の範囲】

PaCO<sub>2</sub> (ETCO<sub>2</sub>) が治療目的範囲から軽度逸脱している  
PaO<sub>2</sub> (SpO<sub>2</sub>) が許容される範囲から軽度逸脱している  
意識状態が安定、ないし適切に鎮静されている  
循環動態は安定している

病状の範囲外

不安定・緊急性あり

麻酔科専門医の  
携帯電話に直接

病状の範囲内

安全・緊急性なし



【診療補助の内容】

侵襲的陽圧換気の設定(酸素濃度、換気様式、呼吸回数、一回換気量等)の変更  
(後述、補足参照)



【特定行為を行う時に確認すべき環境】

ETCO<sub>2</sub> の波形が第 I-III 相まで確認できる  
PaO<sub>2</sub> または SpO<sub>2</sub> の変化は緩徐  
PaCO<sub>2</sub> または ETCO<sub>2</sub> の変化は緩徐  
意識状態・鎮静状態は安定：麻酔深度モニター、  
実測された換気状態は安定：一回換気量、分時換気量、気道内圧  
良好な人工呼吸との同調性：ETCO<sub>2</sub>、呼吸器グラフィックモニタ  
循環動態・体温は安定：新たな虚血性心電図変化、不整脈、大量出血(600mL 以上)が無い。  
新たに生じた合併症が無い：気胸、皮下気腫、無気肺など

異常・緊急性あり

麻酔科専門医の携  
帯電話に直接連絡



【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡の必要となった場合の連絡体制】

麻酔科専門医に連絡



【特定行為を行った後の医師・歯科医師に対する報告の方法】

1. 麻酔科専門医に直接連絡する
2. 特定行為の実施を診療録に記載する

## 手順書:人工呼吸器からの離脱 (術中バージョン)

【当該手順書にかかる特定行為の対象となる患者】

1. ASA-PS が I または II
2. 全身麻酔終了にある患者
3. 抜管に向け全身麻酔薬を減量することを計画している患者
4. 手術が終了に向かって全身状態が安定している患者



【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- 術後出血がない
- 低体温がない
- 頭蓋内圧の上昇がない
- 手術中の新たな不整脈や心筋虚血の兆候がない
- 筋弛緩薬の効果が持続していない
- 皮下気腫がない
- 再挿管の可能性ない
- 再挿管時の挿管困難の可能性がない

病状の範囲外

不安定・緊急性あり

⇒ 麻酔科専門医の  
携帯電話に直接

病状の範囲内

安全・緊急性なし



【診療の補助の内容】

自発呼吸トライアル

以下の数値目標まで人工呼吸器設定を調節し自発呼吸の有無を確認する

ETCO<sub>2</sub> 50 cmH<sub>2</sub>O 以下の範囲で

PEEP 5 cmH<sub>2</sub>O まで

換気回数 8 回/分まで

自発呼吸を確認後、PSV +5cmH<sub>2</sub>O で維持する



【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- 手術が終了に向け、閉創を行っている
- 循環動態が安定している
- 必要十分な術後鎮痛が行われている

異常・緊急性あり

⇒ 麻酔科専門医の携  
帯電話に直接連絡

【医療の安全を確保するために医師又は歯科医師との連絡が必要となった場合の  
連絡体制】

麻酔科専門医に連絡



【特定行為を行った後の医師又は歯科医師に対する報告の方法】

1. 麻酔科専門医に直接連絡する
2. 特定行為の実施を診療録に記載する

## 手順書：直接動脈穿刺法による採血

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. ASA-PS が I または II
2. 呼吸状態、循環状態、酸塩基平衡、電解質、貧血等の評価のために動脈血採血が必要な患者



【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- ・**麻酔科専門医**が動脈血採血を必要と判断した場合
- ・出血傾向がない場合
- ・穿刺部に病変・異常がない場合

病状の範囲外

不安定・緊急性あり



**麻酔科専門医**の  
携帯電話に直接

病状の範囲内

安全・緊急性なし



【診療の補助の内容】

直接動脈穿刺法による採血

< 橈骨動脈穿刺 >

- ・アレンテストで陽性(回復時間が5秒以内)であることを確認する
- ・適切な肢位をとらせ手首を固定する
- ・ポピドンヨードやクロルヘキシジンにて消毒する
- ・**手袋を装着する**
- ・22G～24Gの穿刺針を使用し30～40度の角度で動脈に向かって穿刺する
- ・採血後、5分以上圧迫を行う。凝固異常や抗凝固薬の内服患者には10～15分の圧迫を行い、止血を確認する

< 大腿動脈 >

- ・患者は**仰臥位とする**
- ・恥骨結合と上前腸骨棘の間にある鼠径靭帯より末梢側で大腿動脈の拍動を触知する
- ・ポピドンヨードやクロルヘキシジンにて消毒する
- ・**手袋を装着する**
- ・22G～24Gの穿刺針を使用し60～90度の角度で動脈に向かって穿刺する
- ・採血後、5分以上圧迫を行う。凝固異常や抗凝固薬の内服患者には10～15分の圧迫を行い、止血を確認する



【特定行為を行うときに確認すべき事項】

アレンテストの結果

穿刺時の痛みの訴えと**痺れの有無**

異常・緊急性あり

**麻酔科専門医**の携  
帯電話に直接連絡

バイタルサインの変化  
穿刺した動脈の触知状態と血腫形成の有無  
出血傾向の有無



【医療の安全を確保するために医師又は歯科医師との連絡が必要となった場合の  
連絡体制】

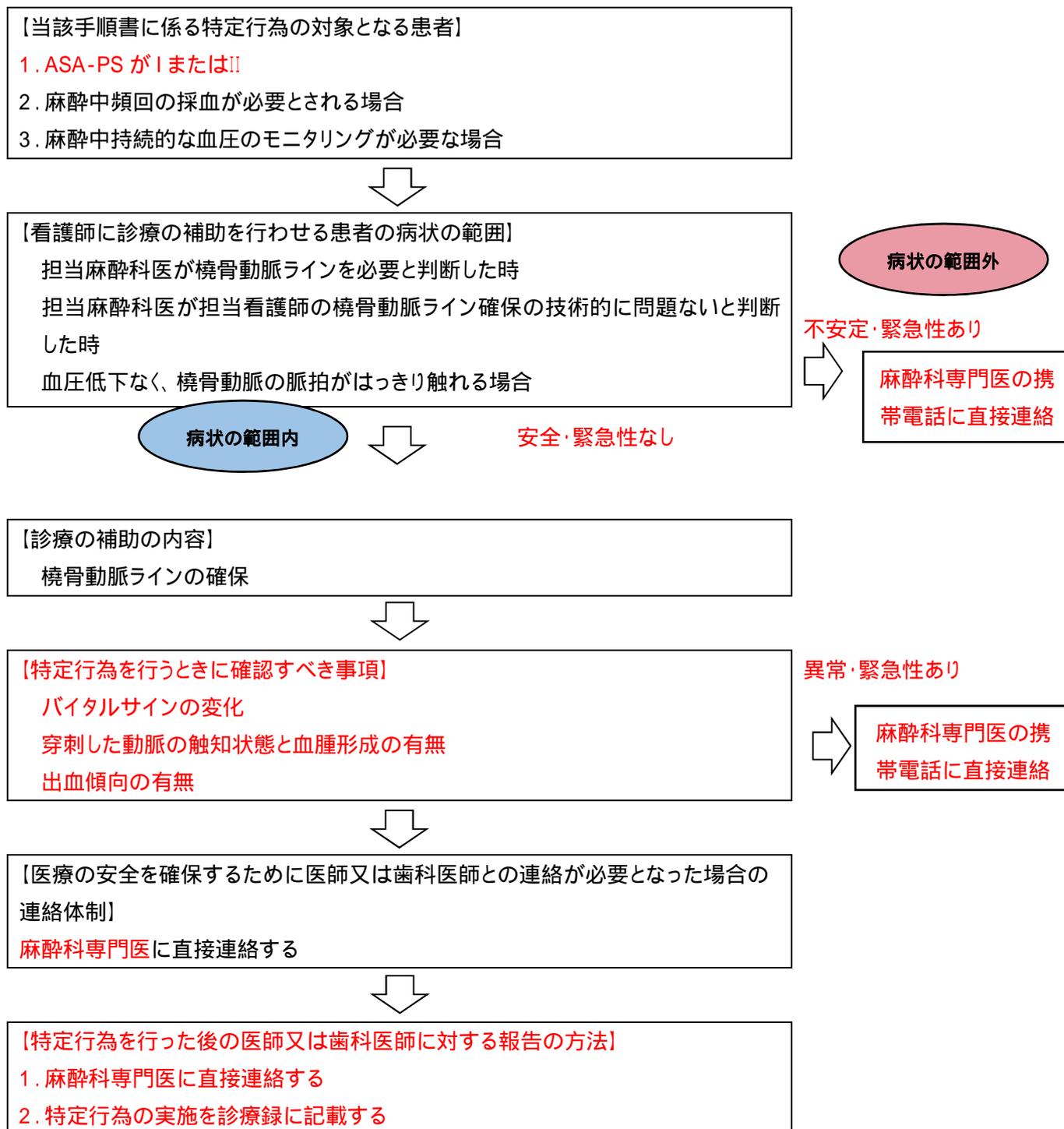
麻酔科専門医に直接連絡する



【特定行為を行った後の医師又は歯科医師に対する報告の方法】

1. 麻酔科専門医に直接連絡する
2. 特定行為の実施を診療録に記載する

## 手順書：橈骨動脈ラインの確保



## 手順書:脱水症状に対する輸液による補正

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. ASA-PS が I または II
2. 術前の絶飲食により麻酔中脱水症状が疑われる場合
3. 術中不感蒸泄により麻酔中脱水症状が疑われる場合
4. 術中出血もしくは腹水の喪失により麻酔中脱水症状が疑われる場合
5. 発熱や発汗持続により麻酔中脱水症状が疑われる場合



【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

脊髄くも膜下麻酔など意識のある患者の麻酔中に意識レベル低下がないこと  
血圧、脈拍が比較的安定している場合  
出血が 600ml 未満であること(成人患者に限る)  
術前の血液検査で血清電解質(Na, K, Cl)異常、腎機能(BUN, Cr)異常や低蛋白血症がないことが確認されていること

病状の範囲外

不安定・緊急性あり

麻酔科専門医の携  
帯電話に直接連絡

安全・緊急性なし

病状の範囲内

【診療の補助の内容】

脱水症状に対する輸液による補正



【特定行為を行うときに確認すべき事項】

意識のある患者の麻酔中における意識レベルの変化  
バイタルサインの変化  
輸血を必要とする出血(成人患者で 600ml 以上)、Hb 9g/dL 未満

異常・緊急性あり

麻酔科専門医の携  
帯電話に直接連絡



【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

麻酔科専門医に直接連絡する



【特定行為を行った後の医師・歯科医師に対する報告の方法】

1. 麻酔科専門医に直接連絡する
2. 特定行為の実施を診療録に記載する

## 手順書：硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. ASA-PS がⅠまたはⅡ
2. 状態が安定している
3. 症がなく、硬膜外カテーテルが挿入されている
4. 硬膜外鎮痛が効果的である
5. 硬膜外鎮痛の副作用がみられない



【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲(特定行為実施前)】

意識状態の変化がない  
バイタルサインの変化がない  
身体所見に異常が無い(出血傾向、敗血症の兆候、呼吸抑制・呼吸不全、痙攣、高位脊髄クモ膜下麻酔など)  
カテーテルからの髄液や血液、膿などの吸引がない  
術後は刺入部および固定部の確認(病院マニュアルに1日1回など)

病状の範囲外

不安定・緊急性あり



麻酔科専門医の携帯電話に直接連絡

病状の範囲内

安全・緊急性なし



【診療の補助の内容】  
硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整



【特定行為を行うときに確認すべき事項(特定行為実施中・実施後)】

意識状態の変化  
バイタルサインの変化(特に血圧・心拍数)  
酸素飽和度  
術後の下肢麻痺、脱力、しびれの出現の有無  
術後の刺入部の状態  
術後の頭痛の有無

どれか1項目でもあれば、下記の状態を確認して麻酔科専門医に連絡する  
血圧低下(指示範囲)・運動麻痺、感覚障害(しびれ)

異常・緊急性あり



麻酔科専門医の携帯電話に直接連絡



【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】  
麻酔科専門医に直接連絡する

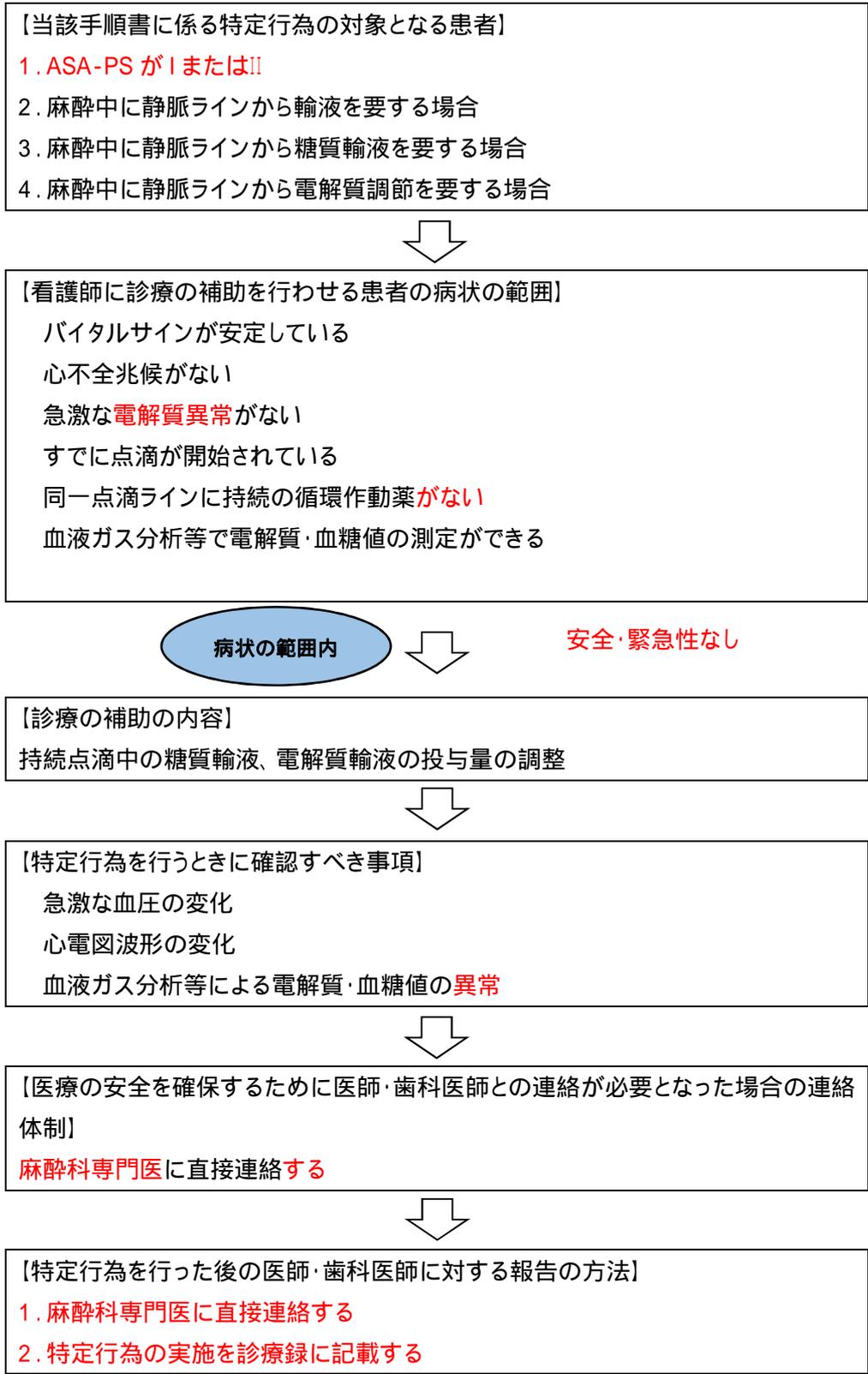


【特定行為を行った後の医師・歯科医師に対する報告の方法】

1. 麻酔科専門医に直接連絡する

2. 特定行為の実施を診療録に記載する

## 手順書: 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整

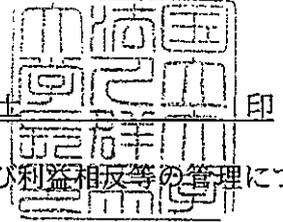


厚生労働大臣  
 (国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
 (国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人群馬大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 平塚 浩士



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 厚生労働科学特別研究事業
2. 研究課題名 周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学系研究科 教授  
 (氏名・フリガナ) 齋藤 繁 (サイトウ シゲル)

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年 3月29日

厚生労働大臣 殿

機関名 公立大学法人奈良県立医科大学

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 細井 裕司



次の職員の平成30年度厚生労働行政推進調査事業費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 厚生労働科学特別研究事業

2. 研究課題名 周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・教授

(氏名・フリガナ) 川口昌彦 (カワグチ マサヒコ)

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

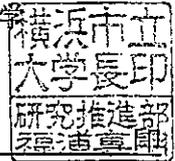
6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣殿

機関名 横浜市立大学  
 所属研究機関長 職名 学長  
 氏名 窪田 吉信



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 厚生労働科学特別研究事業
2. 研究課題名 周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科 麻酔科学・教授  
 (氏名・フリガナ) 後藤 隆久・ゴトウ タカヒサ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                              |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                                     |
|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|-------------------------------------|
|                                     | 有                                   | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                            |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/>            |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/>            |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/> |        | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/>            |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/>            |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

平成30年度において、本学において調査研究を実際に行っていないため。

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

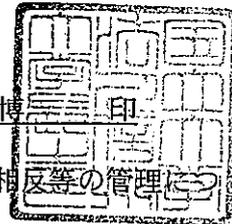
31年4月15日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人信州大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 濱田 州博



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 厚生労働行政推進調査事業費
2. 研究課題名 周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 信州大学医学部麻酔蘇生学教室 教授  
(氏名・フリガナ) 川真田 樹人 (カワマタ ミキト)

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

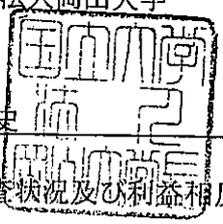
平成31年 4月 1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人岡山大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 横野 博史 印



次の職員の平成30年度厚生労働行政推進調査事業費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 厚生労働科学特別研究事業
- 2. 研究課題名 周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医歯薬学総合研究科 (医) 教授  
(氏名・フリガナ) 森松 博史 モリマツ ヒロシ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

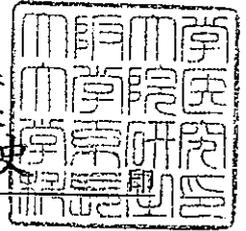
|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年3月29日

厚生労働大臣  
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
(国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人大阪大学  
所属研究機関長 職名 大学院医学系研究科長  
氏名 金田安史



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 厚生労働科研特別研究事業
- 研究課題名 周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 大阪大学大学院医学系研究科 教授  
(氏名・フリガナ) 藤野裕士 フジノユウジ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

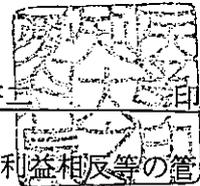
2019年4月26日

厚生労働大臣  
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
(国立保健医療科学院長)

機関名 愛知医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 佐藤 啓三



次の職員の平成30年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 厚生労働科研特別研究事業

2. 研究課題名 周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部 ・ 教授

(氏名・フリガナ) 藤原 祥裕・フジワラ ヨシヒロ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

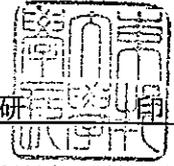
(留意事項) ・ 該当する口にチェックを入れること。  
・ 分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 東 邦 大 学

所属研究機関長 職 名 学 長

氏 名 高 松



次の職員の平成 30 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 厚生労働科学特別研究事業
2. 研究課題名 周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部医学科麻酔科学講座 (大森)・准教授  
(氏名・フリガナ) 佐藤 暢一・サトウ ノブカズ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

- (留意事項)
- ・該当する□にチェックを入れること。
  - ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

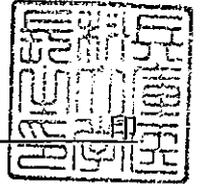
2019年4月26日

厚生労働大臣  
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
(国立保健医療科学院長)

機関名 兵庫医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 野口 光一



次の職員の平成 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 厚生労働科研特別研究事業
2. 研究課題名 周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 麻酔科学・疼痛制御科学講座 ・ 主任教授  
(氏名・フリガナ) 廣瀬 宗孝・ヒロセ ムネタカ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2019年4月26日

厚生労働大臣  
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
(国立保健医療科学院長)

機関名  
所属研究機関長 職名  
氏名

聖路加国際病院  
院長 福井次夫



次の職員の平成 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 厚生労働科研特別研究事業
- 2. 研究課題名 周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 麻酔科 ・ 部長  
(氏名・フリガナ) 長坂 安子・ナガサカ ヤスコ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

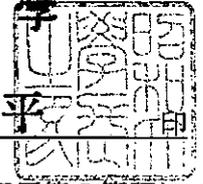
|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

平成31年4月26日

厚生労働大臣  
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
(国立保健医療科学院長)

機関名 昭 和 大 学  
所属研究機関長 職 名 学 長  
氏 名 小 出 良 平



次の職員の平成 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 厚生労働科研特別研究事業
- 2. 研究課題名 周麻酔期管理における新しいチーム医療体制推進の手法についての研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 学校法人 昭和大学総務部 経営戦略室 主幹  
(氏名・フリガナ) 石橋 まゆみ・イシバシ マユミ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書籍名           | 出版社名          | 出版地 | 出版年    | ページ |
|------|---------|-----------|---------------|---------------|-----|--------|-----|
|      |         |           | 周術期特定行為研修について | 公益社団法人日本麻酔科学会 | 神戸  | 令和1年9月 | 49  |

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|-------|---------|------|----|-----|-----|
|       | 該当なし    |      |    |     |     |